

# 茶道部だより

2012. 12. 09  
 【発行】  
 大妻女子大学  
 茶道部  
 【発行責任者】  
 倉橋由季

「あいさつ」

本日はお忙しい中、私ども大妻女子大学茶道部の雪待茶会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

日に日に寒さが増してくるこの時期、寒空を見上げることが多くなって参りますと、この雪待茶会の季節であるということを実感致します。

今年も例年通り、新入生の立礼席と上級生の広間席との一席をご用意致しました。特に今年の新入生は、今回の雪待茶会で初めてお点前を披露致します。新入生の門出とも言えるお茶会を洗心亭のような立派なお茶室で行えることを、部員一同大変嬉しく思っております。

至らぬ点もあるとは思いますが、楽しんでいただけましたら幸いです。

雪待係・部長 倉橋 由季



10月21日 添釜茶会にて

## 先生方からのお言葉

千代田校顧問

大森 正司



身体と心の癒しの素

茶が身体の健康にとって優れていることは、様々な研究結果から明らかとされてきました。二十一世紀の今、残されている課題としては平均寿命の延びたことによるボケ、アルツハイマー、および花粉症やアトピー性皮膚炎などに見られるアレルギー、そして家庭内や学校、職場でもすぐにブツツンする、キレル青年の増加などが見られます。

特に、近年の子どもの食生活や食育を見てみると、個食や孤食、ばっかし食い、箸の持ち方もままならず、高次加工食品の摂取比率も極端に高く、結果的に肥満、虫歯、キレル子の増加を形成しています。このような社会にとって、今、必要なもの、それは「茶の間」という空間に茶をしっかりと据え、ゆったりとした時間を共有することではないでしょうか。もちろん現代のこの生活空間の中では、現実には茶の間などというものを保持するものでもありませんが、しかし、心の中心にすてきな茶の間をおき、あらゆる時間、あらゆる場所で、この茶の間を通してあらゆる人との出会いを大切にすること、それがこのキレルということに対する妙薬と考えられます。

千代田校師範

浅賀 宗容



雪待茶会を迎えて

素晴らしい茶を淹れて、淹れられる。身も心も癒されるときです。

立礼席の床には「喫茶去」をかけました。「喫茶去」これは唐代の有名な趙州禪師のことばです。「喫茶」というのは、お茶を飲むこと。「去」というのは、行きなさいということ。なのでこの言葉は、まあ一つ、お茶でも飲んで行きなさいという意味になるのですが、ここでは「去」を自分から行くこと、ことばに解釈して「さあ、お茶を飲みに行こうよ」と理解すると、「茶席の禪語」の著者である有馬頼底氏は説いています。

趙州禪師の「喫茶去」はさらに意味があって、実を言えば、お茶を飲むという日常の行為、ごくごくありふれた、そうした日常茶飯事の中にこそ、実は本当の心理があるんだ、と言うことなのです。

お茶を楽しむ中では、枝葉に囚われないで、お茶を喫することの重みを感じ、おのずから深いものを体得して、そのことによって自己を高めることが大切とあります。

どうぞ、正客になることをおそれず、茶の湯を楽しんでいただきたいと思えます。また私たちはお茶をいろいろなかたちで飲用しています。

日本茶では、お茶会で抹茶を薄茶や濃茶と

していただきますが、その他にも玉露や煎茶、番茶などがあり、食事やティータイムにいただいています。(日本茶ばかりではなく、紅茶やウーロン茶もあります)

お茶は私たちの生活の中にあって、お茶をいただくときは、家族や友人、職場では同僚達が集まり、お茶のみ、お菓子をいただきながら、おしゃべりをして楽しく過ごします。おいしいお茶の一杯が心を和ませ、次への仕事の活力へと通じます。お茶が持つ役目は今も昔も変わりなく、人と人とを結びつける大きな役目をしていると今さらながら感慨深く思います。

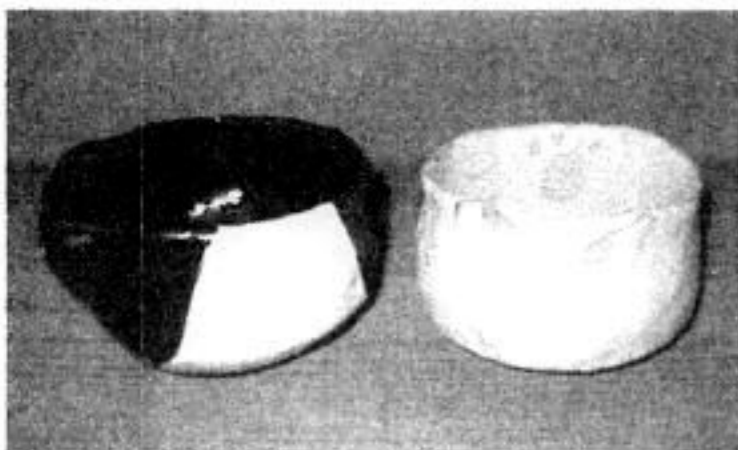
## 活動報告

【お茶碗作り体験】

尾形 郁

九月の夏休みに茶碗作りに挑戦しました。絵付けを体験したことはあったのですが、茶碗作りはしたことがなく、とてもワクワクしてしました。説明を受けてから作り始めたのですが、最初は似たような形をしていた粘土でしたが、形を作ると一つとして同じものにはなりません。

粘土をこねて形を作り、絵付けをし、焼くなどの茶碗作りの過程は人間に例えられると思います。様々な経験をを経て人間は成長するところなどは、茶碗の形作りに通じるものがあるのではないかと思えます。私も立派な茶碗となれるよう、成長し続けたいと思います。



【茶道部に入学して】

大場 美里

私が茶道部に入学した理由は高校生の時に茶道部に所属していたからです。大妻女子大学では英文学科の一年生は狭山校に通うので市ヶ谷で活動している茶道部に入学するのは一年生になってからと決めていました。

高校の時にある程度茶道の経験があったので自信を持って入学しましたが、実際に入ってみると自分がお点前を忘れていたり長時間の正座に足が慣れていない事を思い知らされました。そのため十月の添釜茶会では水屋に徹していました。十一月の雪待茶会では立礼でお点前することになりました。今回のお茶会がお点前デビューになるのでどうぞ宜しくお願いします。

編集後記

慌ただしい準備の中での新聞作成でしたが、どうにか完成させることができました。簡単なものではあります。この新聞によって皆様に大妻女子大学茶道部を知っていただけましたら幸いです。最後になりましたが、お忙しい中、ご指導ご協力いただきました先生方および部員の皆様にお礼申し上げます。

発行日 平成24年12月9日(日)  
 発行者 大妻女子大学茶道部  
 〒102-0075 東京都千代田区二番町12番地  
 責任者・編集者 倉橋由季  
 Mail otsumasadou@yahoo.co.jp  
 HP http://otsumasadou.web.fc2.com/index.html